

4種 少年リーグ・大会 における注意事項

1. ベンチ
指導者:2名、控え選手、のみ(大会の規定により異なる場合がある)
 - ① コーチングは、1度に声をかけられるのは1人の指導者のみとし、2人の指導者が同時にコーチングしてはならない
 - ② コーチングボックスから飛び出してコーチングしてはならない
 - ③ 指導者はコーチング以外の声を発しない(ジャッジへの干渉、罵声をあびせる、など)
 - ④ 控え選手は、ピッチ上の選手と見分けが付く服装とする
 - ⑤ 退場処分を受けた選手は、速やかにベンチ(試合会場)より退くこと
 - ⑥ サポーター(父母・保護者)は、ベンチ以外の場所で応援する(あくまでも応援である)
サポーターによるコーチングや野次・罵声については、当該チームの指導者が責任を持って注意する

2. 交代
選手の交代は、円滑に・スムーズに行う
 - ① 交代選手の服装は、交代の宣言までに自軍指導者により事前に行っておく
 - ② 交代は、1度に1人ずつ(2枚代えの時でも1人ずつの交代を繰り返す)
 - ③ 交代場所は、主審の指示により最寄のラインからのアウトは認められているが、インについては、ハーフウェーラインから主審の指示により入場する
 - ④ 入退場の際は、レフリーにゼッケンが見えるように身体を向ける
 - ⑤ 入場時にアシスタントレフリーから服装チェックを求められた場合には応じなければならない(大会によっては、第4審が確認する場合もある)
 - ⑥ 交代退場後は、ピッチから離れた場所をとり速やかにベンチにもどる
 - ⑦ リエントリー可能となっている場合でも、フェアプレーの精神に反するような、明らかな時間稼ぎの交代は避ける
 - ⑧ 大会によっては交代人数の制限・リエントリー禁止の場合もある

3. 審判
日本サッカー協会 S・4 レフリー以上の有資格者とする
 - ① 4年生からは、少年少女審判員資格を取得することができ、アシスタントレフリーを勤めることができる(記録を残してあげてください)
 - ② 通常3年生以下では、少年少女審判員資格の取得がないため、主審が副審を十分にカバーする(育成を兼ねて遂行する)
 - ③ 3-B 以下では、ゴールキックはゴールエリア内でのバントキックが認められている(3-A からはプレイスキック)
 - ④ 大会規定によっては、副審も日本サッカー協会 S・4 レフリー以上の有資格者と規定される場合もある
 - ⑤ 警告・退場の処置については、審判報告書の提出を行わなければならない(審判部・地区長・所属代表者)
 - ⑥ 最終試合の主審は、試合結果報告を当該カテゴリー担当者に行わなければならない
 - ⑦ 第一試合の主審が作成(トレーニングマッチも含む)
 - ⑧ 警告・退場のあった場合には、審判カードの対戦枠の横に書きとめること

4. その他
 - ① グランド毎に注意事項が設けられている場合がある([グラウンド情報の項を参照の事](#))
 - ② グランド当番は運営上の役割で、設営～ライン引き・引き足しなど適時必要なことを行う
 - ③ 第一試合のチームは、設営を手伝い、最終試合のチームは片づけを手伝う
 - ④ 駐車場の利用に際してルールを守り、駐車証([駐車証の項を参照の事](#))を提示しておく
 - ⑤ ルール・規範として文面化されていない事項も多数あり